

にいがた 畜産協会たより

公益社団法人
新潟県畜産協会

新潟市西区山田字堤付2310-15
全農にいがた第2ビル内
TEL.025-234-6781~6783



震災を乗り越えた若き牛飼いの道のり

(関連記事 5 ページ)

目 次

- ◆ 平成25年度事業計画及び収支予算決まる!
～平成24年度第2回臨時総会を開催しました～ …… (2)
- ◆ 飼料価格高騰下での所得向上対策 …… (4)
- ◆ 中越大震災からの復興への取組を発表
～関克史氏(長岡市山古志)が地域畜産再生フォーラムで東北を応援・全国優良畜産経営管理技術発表会では最優秀賞を受賞～ …… (5)
- ◆ 畜産安心ブランド生産農場交流会を開催
～新たに18農場に認定証を交付～ …… (5)
- ◆ 畜産共進会への褒賞授与 …… (6)
- ◆ 畜産女性ネットワーク交流会を開催 …… (6)
- ◆ 声のコーナー …… (7)
「和牛肥育を通して思うこと」
肉用牛経営：新発田市 石山 勝徳
「養豚初心者」
養豚経営：新潟市 斉藤 剛
- ◆ 畜産安心ブランド生産農場だより …… (8)
新発田市：めおと牧場 齋藤 栄毅
- ◆ 畜産物市況 …… (8)
- ◆ 編集後記 …… (8)

平成25年度事業計画及び収支予算決まる！

～平成24年度第2回臨時総会を開催しました。～

《「平成24年度第2回臨時総会」の開催結果》

平成24年度第2回臨時総会を平成25年3月25日に「全農新潟県本部ビル」(新潟市西区)において開催しました。

当日の議事経過と決議事項、平成25年度事業計画及び収支予算の概要についてお知らせします。

1 経過

(1) 今井会長が臨時総会の開会を宣言

(2) 出席会員数の報告

事務局から書面での出席者を含め開催日現在の正会員の出席数を報告し、定款第17条に定める総正会員の議決権の過半数を有する会員が出席しており、総会が成立することを報告した。

(3) 今井会長挨拶

協会運営の支援に謝意を表し、配合飼料価格の高止まり等生産コスト上昇の一方で畜産物卸売価格の低迷により畜産経営体は厳しい経営状況にあることから、当協会が実施している補助事業等を通じて経営の安定を図り発展することを願っていることを含めて挨拶した。

(4) 祝辞（新潟県農林水産部長）

当協会の実施事業に対し、畜産経営の安定を図るうえで有用であると謝意を表し今後の活躍を期待する等祝辞を述べた。

2 議案の審議と結果

今井会長が議長となり、次の第1号から第4号及び附帯決議の各議案を鶴巻専務理事が説明し、慎重審議のうえ採決した結果、全員の賛成により全議案を原案どおり決議しました。

○ 提出議案

第1号議案 平成25年度事業計画及び収支予算、資金調達及び設備投資の見込みについて

第2号議案 平成25年度会費について

第3号議案 平成25年度借入金の最高限度額及び借入先の決定について

第4号議案 役員報酬の決定について

附帯決議

・・・平成25年度事業計画及び収支予算の概要・・・

○ 基本方針及び当初予算総額

最近の畜産経営が置かれている厳しい現状を踏まえ、当協会は平成25年度においても公益社団法人として公益性の高い事業の取組を推進するため、農林水産省及び（独）農畜産業振興機構の補助事業の公募に積極的に参加する等によって、行政ルート以外の補助事業の県段階の実施団体として機能を果たすとともに、生産から消費に至る各段階の事業を的確に実施します。

これら事業の実施に当たっては、国、県並びに中央団体の指導のもと、会員、関係機関及び関係団体と連携し、円滑な推進に努めます。

なお、国等の補助、受託事業の減少等により事務費が削減されており、厳しい協会運営が続いていることから、「財政健全化対策」（平成24年12月17日理事会承認）に沿った効率的な事務局運営と事業実施を図ります。

○ 当初予算総額（一般正味財産）

（単位：千円）

収入額（経常収益）	支出額（経常支出）	当期一般正味財産増減額
626,365	632,003	△ 5,638

○ 主要事業の実施計画

公益目的事業1（補填）

畜産物の価格変動により生ずる畜産経営体の損失を補填する事業

- (1) 肉用子牛生産者補給金制度
保証基準価格等の引き上げ
- (2) 肉用牛繁殖経営支援事業
発動基準額の引き上げ
- (3) 肉用牛肥育経営安定特別対策事業
新事業期間の開始(契約更改)

○ 補填金等交付計画額 (単位：千円)

事業名	交付計画額
肉用子牛生産者補給金制度	84,030
肉用牛繁殖経営支援事業	4,095
肉用牛肥育経営安定特別対策事業	407,000
合計	495,125

公益目的事業2（指導）

畜産経営体に対する経営及び技術の改善指導等を実施する事業

- (1) 畜産経営技術高度化推進事業

指導メニューをこれまでの4メニューから最も濃密な指導を行う総合指導に一本化し、十分な調査と対策検討に重点を置いた指導に変更します。なお、肉用牛経営指導については「にいがた和牛」増頭に向けた施策の一環として、指導対象を黒毛和種飼養経営に特化して実施します。

○ 平成25年度総合指導実施戸数 (単位：戸)

指導区分	酪農	肉用牛	養豚	合計
戸数	6	12	6	24

公益目的事業3（助成）

高能力家畜、器具・器材等の導入及び家畜防疫を徹底するための経費に対して助成を行う事業

- (1) 肉用牛経営安定対策補完事業

離島における肉用牛繁殖基盤の強化に努めます。

- (2) 家畜生産農場清浄化支援事業

豚オーエスキー病清浄化の促進・維持を図るため県外導入種豚、県内流通種豚の抗体検査及び吸血昆虫媒介疾病（アカバネ病等）のワクチン接種等を推進するための補助を行うとともに、生産者が飼養衛生管理向上のため自主的に獣医師等による衛生指導を受けるための取組を支援します。

○ 平成25年度検査・注射計画 (単位：頭)

項目	オーエスキー病抗体検査	アカバネ病予防注射	牛異常産混合予防注射
計画頭数	2,250	340	1,120

公益目的事業4（認定）

衛生管理基準を充足した畜産経営体を認定する事業

食の安全・安心を求める消費者ニーズに対応した「畜産安心ブランド生産農場」の認定を推進します。

○ 平成25年度認定計画〔（ ）内は平成24年度認定審査後の農場数〕 (単位：戸)

畜種	乳用牛	肉用牛	豚	採卵鶏	肉用鶏	合計
認定農場数	10 (59)	10 (77)	— (70)	— (22)	— (19)	20 (247)

その他事業

- (1) 県産牛のブランド化を推進する「にいがた和牛推進協議会」事務局を運営する事業
- (2) 畜産物の消費拡大を図る事業
畜産業や畜産物に対する県民の理解増進に努めます。
- (3) 緊急事態発生時に畜産経営体、団体に助成金を交付する事業
伝染病の発生又は災害発生時に畜産経営体等への緊急対策を実施します。

飼料価格高騰下での所得向上対策

平成24年の畜産経営を取り巻く環境は、配合飼料価格の高止まりに加え、乾草価格の値上がりにより、購入飼料費が大幅に増加しました。

このような情勢の中で、当協会が経営指導メニューの1つとして実施している緊急課題対応型指導対象経営体では、所得向上対策として生産コストの低減や生産性向上に取り組み成果を上げているので、主な内容について紹介します。

酪農経営

1 暑熱対策と乳房炎防除対策の徹底

【取り組み内容】

- トンネル換気・細霧システム、連続水槽の設置
- 自動給餌機による1日5回の飼料給与、夏季の夜間給与の実施
- ミルカーは毎月1回分解掃除を行い、ライナーゴム等の部品は早期交換を実施
- 乾乳前、分娩前に乳汁検査を実施し、異常牛は獣医師による早期治療を実施

【成果】

- 経産牛1頭当たり年間乳量9,511kg、年間平均体細胞数16.8万個を達成

2 最適な飼養環境の整備

【取り組み内容】

- 乾乳牛は乾乳牛舎の乾乳牛房で飼養し分娩時の事故を防止
- 繋ぎ牛舎とフリーストール牛舎を併用し、フリーストール牛舎飼養牛に異常が見られたら、疾病発生前に繋ぎ牛舎で個体管理を徹底
- 繋ぎ牛舎の短い牛床をアンカーと木材で15cm延長し、やわらかいマットを設置して関節炎を防止

【成果】

- 経産牛処分率を14.3%に低減

3 耕畜連携等による低コスト飼料の確保

【取り組み内容】

- 飼料用稲23.4ha、飼料用米35.5haを耕種農家と連携し、生産組合で共同利用
- 飼料用トウモロコシ11haを共同栽培

【成果】

- 購入飼料に比べ、飼料用米は47%、飼料稲・トウモロコシは74%の価格で確保し、年間飼料費を280万円節減

肉用牛経営

1 分娩間隔の短縮

【取り組み内容】

- 繁殖牛房にパドックを設置し、運動スペースを確保
- 繁殖牛の発情観察回数、観察時間を増強
- 分娩後60日を過ぎて不受胎の牛は早期診療を徹底

【成果】

- 適期授精により空胎期間74日、分娩間隔12.0か月と1年1産を達成

2 肥育牛の個体管理の徹底

【取り組み内容】

- 牛群頭数を1群4頭とし、1頭当たり牛床面積7.3m²と広いスペースを確保
- 個体間の飼料採食量に差が出ないように給与量を調節
- 同一肥育牛の体重測定を年3回実施し増体量を把握
- 日齢体重の低い素牛は肥育前期に高タンパク飼料を多めに給与する等問題のある牛の管理を徹底

【成果】

- 1日当たり増体量0.88kgを達成
- 肥育日数589日を達成

養豚経営

1 購入飼料費の節減

【取り組み内容】

- 子豚期用飼料（生後10～60日齢）に飼料用米を約14%添加して給与

【成果】

- 離乳子豚1頭当たりの子豚期の飼料費は、配合飼料単独給与時に比べて705円の節減
- 離乳後の1日当たり増体量は711gと良好で、肉豚上物率も58.8%と高位安定

2 暑熱対策の徹底による快適な環境の維持

【取り組み内容】

- 種豚舎に2方向の送風が可能となるようにダクトを設置
- 外部からの直射日光の遮断及び屋根焼けを防止するため、豚舎周辺に植樹

【成果】

- 夏バテによる飼料採食量の落ち込みを防止し、繁殖雌豚の健康状態が良好に保たれることで繁殖成績が高位に安定しており、特に、流産・早産発生率が0%と良好

中越大震災からの復興への取組を発表

～ 関 克史氏（長岡市山古志）が地域畜産再生フォーラムで東北を応援・全国優良畜産経営管理技術発表会では最優秀賞を受賞 ～

3月6日、(社)中央畜産会が主催する平成24年度地域畜産再生フォーラムと、同会及び全国肉用牛振興基金協会が主催する平成24年度全国優良畜産経営管理技術発表会が東京都の機械振興会館で開催されました。本県の関克史氏（長岡市山古志・肉用牛経営）がフォーラムで発表し、また全国発表では最優秀賞を受賞しました。

地域畜産再生フォーラムは東日本大震災被災地域の畜産再生に向けて、全国から収集された過去の自然災害・家畜伝染病等からの再生・復興を果たした畜産経営や地域の取り組みのうち、普及性の高い事例の発表を目的として開催されました。発表の中で、関氏は「中越地震を乗り越えた若き牛飼いの道のり」をテーマに、自身が経験した新潟県中越大震災からの経営再建・復興の取り組みを紹介し、「東日本大震災で被災された方々は、どうか諦めず、一步でも前へ進んでほしい」と、応援メッセージを述べました。

全国発表では、上記フォーラムの発表者を含めた12事例が受賞者として選考されました。関氏の取り組みは地域の肉用牛生産基盤の確立と文化の伝承に大きく寄与していると高く評価されたことから、農林水産大臣賞、中央畜産会長賞、肉用牛振興基金協会会長賞が授与されました。



表彰式後の関 克史氏ご夫妻

畜産安心ブランド生産農場 交流会を開催

～ 新たに18農場に認定証を交付 ～

去る2月19日（火）、全農にいがた県本部ビルにおいて、認定農場、消費者、認定委員会委員、管理獣医師、関係機関・団体等62名に出席いただき、平成24年度の畜産安心ブランド生産農場交流会を開催しました。

本年度の認定は、昨年12月20日に認定委員会（委員長：楠原征治氏）を開催して、申請のあった乳用牛3、肉用牛5、豚6、採卵鶏4、計18戸について審査を行った結果、全ての農場が認定基準に適合していると判断されたものです。認定事業に取り組んで10年の節目を迎え、認定農場数は247戸となり、県内畜産農家の40%が安心農場になったこととなります。認定証の交付を受けた生産者は全員で「今後一層、安全・安心な畜産物の提供に努める」旨の心強い決意表明を行いました。

続いて、楠原征治氏を座長に、話題提供と意見交換に移り、県農林水産部畜産課の山家崇技師からは「畜産安心ブランド認定10年の取組」について、(株)佐渡乳業の土屋一春専務からは「クリーンミルク認定農場と連携した特色ある乳製品づくり」、(株)タカムラ鶏園の小幡真也常務からは「鶏卵の農場から食卓までの安全・安心管理システム」について紹介がありました。

今回は初めて認定農場産の畜産物の展示コーナーを設け、消費者の方々に紹介する良い機会となりました。

認定農場数と認定率

(平成24年12月20日現在)

畜種	乳用牛	肉用牛	豚	採卵鶏	肉用鶏	合計
農場数	59	77	70	22	19	247
(%)	(22)	(52)	(46)	(61)	(95)	(40)



認定農場産の畜産物を消費者にPR

畜産共進会への褒賞授与

当協会では、本県の畜産振興に寄与するため、主に県下一円又は市町村の範囲以上を参加地域とする畜産共進会等において、優れた成績を取めた方に対し、賞状及び副賞を交付しております。

平成24年4月から12月までに12ヶ所の共進会等で交付いたしました。結果は下記のとおりです。

賞状及び副賞を交付した共進会等 (開催日順、敬称略)

行事名	主催名	賞名	受賞者名	住所
第38回全佐渡ブラックアンドホワイトショウ	佐渡ホルスタイン改良同志会	最優秀賞	本間敏明	佐渡市
第19回JA佐渡和牛共進会	佐渡農業協同組合	優等賞	梶井佐武郎	佐渡市
			山登忠男	佐渡市
第37回津南町肉豚枝肉共励会	津南町養豚組合	最優秀賞	涌井好一	中魚沼郡津南町
平成24年度くびき肉牛研究会	えちご上越農業協同組合 上越和牛改良組合	最優秀賞	萬羽博文	上越市頸城区
平成24年度四JA肉牛枝肉勉強会	豊栄農業協同組合 豊栄農協肥育牛部会	ベスト枝肉賞	小野正義	胎内市
第18回新潟県養豚協会肉豚枝肉共進会	新潟県養豚協会	優秀賞	高橋金太	新発田市
		優秀賞	姿農場	十日町市
		ベスト枝肉賞	生越利男	十日町市
第12回十日町農業協同組合養豚枝肉共進会	十日町農業協同組合養豚部会	最優秀賞	姿農場	十日町市
		優秀賞	澤口養豚場	十日町市
平成24年度新潟県子牛共進会	全国農業協同組合連合会新潟県本部	最優秀賞	阿部吉光	長岡市
第57回新潟県肥育牛求評共励会	全国農業協同組合連合会新潟県本部	最優秀賞	時田 正	村上市
		優秀賞	和田一男	小千谷市
			遠山幸一	村上市
平成24年度白根地域枝肉共進会	白根地域畜産振興協議会	優秀賞	川村照志	新潟市南区
第22回肉用牛共進会	新潟県家畜商協同組合	優秀賞	幸田康彦	新発田市
			五十嵐正平	新発田市
			鎌田正好	新発田市
第41回中之島地域畜産共進会	中之島地域畜産振興協議会	最優秀賞	田口正一	長岡市

畜産女性ネットワーク交流会を開催

2月27日に全農にいがた県本部ビル（新潟市西区）において、「平成24年度畜産女性ネットワーク交流会」を開催しました。

当日は畜産経営に携わる女性の方々をはじめ、JAや県機関、畜産関係団体から35名の参加がありました。

本年度は「みんなで考えよう畜産の担い手問題」をテーマに畜産の担い手確保について検討しました。

はじめに、新潟県農林水産部経営普及課の白崎副参事が「農業の担い手確保のための新潟県の支援策」として県内の担い手対策の現状や課題と対応方向、新規就農者への支援制度を説明しました。

次にパネルディスカッションを行い、同部畜産課の品田課長補佐を座長とし、後継者のいる経営者と後継者となる担い手のパネリストが意見交換をしました。まず経営者側が後継者確保の経緯や法人化を選択した理由、担い手側が就農に至った経緯について説明しました。そして経営者側からは後継者を育成していく上で親子又は従業員との信頼関係が大切であること、担い手側からは同じ業種を営む仲間との繋がりが大切であること、また将来の夢を語っていただき、とても有意義な交流会となりました。

【パネリスト紹介】 (敬称略)

- 経営者
 - 村山佐喜雄（三条市）〔酪農〕
 - 島田 玲子（中魚沼郡津南町）〔養豚〕
 - 堤 富士人〔株〕Moimoiファーム代表取締役（新潟市南区）〔酪農〕
- 担い手
 - 関 克史（長岡市）〔肉用牛〕
 - 山田 丈晴（中魚沼郡津南町）〔養豚〕



パネルディスカッションの様子



肉用牛経営

新発田市下今泉

石山 勝徳



養豚経営

新潟市西蒲区馬堀

斉藤 剛



『和牛肥育を通して思うこと』

私の家は新発田市にあります。夏の暑さ、冬の寒さ、大雪に見舞われる年もありますが比較的過ごしやすく、農業をするには適した環境にあると思います。そんな環境の中、約50頭の和牛肥育、作付面積にして約17ヘクタールの稲作、そして1,000平方メートル程の規模の越後姫栽培の三種で複合経営をしています。畜産部門は、以前は交雑種を70頭肥育していましたが、その後和牛の肥育に転換し、今年で4年目になります。肥育をするうえで、交雑種と和牛とで大きな違いは感じておらず、ストレスをかけない飼育に努めるとい点では同じだと思います。牛にとって、餌を食べる、草やワラを食べる、水を飲む、排便する、寝る、という当たり前の行為を、全ての牛が毎日当たり前に行えるという事が最も重要ではないかと考えています。そして、その毎日の積み重ねが結果に繋がるのだと実感しています。特別な事はしていませんが、牛が毎日快適に過ごせる環境作りを心がけています。

ここ数年、BSEや東日本大震災に伴う風評被害などに少なからず影響を受けましたが、幸い経営が傾く程の打撃は受けずに済んでいます。牛も人も普通の毎日を普通に過ごせる事が、実は代え難い事なのだと気づきました。私の家は、牛、米、苺を三本の柱として成り立っていますが、その柱を多くの人に支えて頂いているのだと感じています。私はその中の一人として、どれだけの力になっているのか、なっていけるのかは分かりませんが、できる限りこの柱を支える為に尽力していきたいと思っています。

『養豚初心者』

養豚を始めて2年が経過し、3年目に突入しました。それまではガソリンスタンド、亜鉛メッキの会社で働いていましたが、家業の農業を継ぐことになり、養豚の世界に飛び込みました。会社勤めの時は決まった休日があり、趣味に費やす時間も確保できたのですが、養豚に従事してからは休日の無い毎日が続いています。それでも会社勤めとは違い、やりがいのある充実した日々を過ごしていると胸を張って言えます。

就農当初は、勉強不足で右も左も何も分からないまま始めた養豚ですが、周りの多くの人からご指導ご支援をいただき、人工授精や繁殖管理全般を始めとする仕事のいろはや血液検査によって農場の疾病発生状況を把握できたことなど多くの事を学んだ2年間でした。

さらに、畜産協会が実施している畜産経営技術支援指導（コンサル）を受診したことにより、経営にもタッチするようになり、ますます養豚がおもしろくてしょうがない気持ちでいっぱいです。

私は旧巻町に住んでいますが、養豚農家はこの数年でだいぶ少なくなり、今では我が家一軒だけになってしまいました。なおかつ、Hypor（オランダで育種改良されたハイブリッド豚）を飼養している農家も県内では数軒になり、ちょっと寂しい気もしますが、年内に我が家に原種豚を導入することが決定し、またも新しい仕事が増え、気の抜けない日々が始まります。これまでの経験と勉強を忘れずに、さらに精進し、上を目指して生き残れる養豚農家になりたいと思っています。

分からない事がまだまだ沢山ありますが、一つ一つきちんと覚え、地に足を付け頑張っていきたいと思っています。

畜産安心ブランド生産農場だより

新発田市：めおと牧場 齋藤 栄毅

私たちの「めおと牧場」は今現在、搾乳牛62頭・育成牛40頭を家族4人で飼養し、年間約630tの牛乳を生産しています。

牧場の経営理念は「牛を程よく健康に飼養することにより、病気の発生を最大限に抑え、その結果として最大の利益を生み出そう」というものです。それにより必然的に安心・安全でおいしい牛乳を生産することが可能になると考え、乳質にこだわった生産管理をしています。その結果、年間を通した平均の乳質は体細胞数5万8千、細菌数は8千という県内トップクラスの乳質を維持し続けていると自負しております。

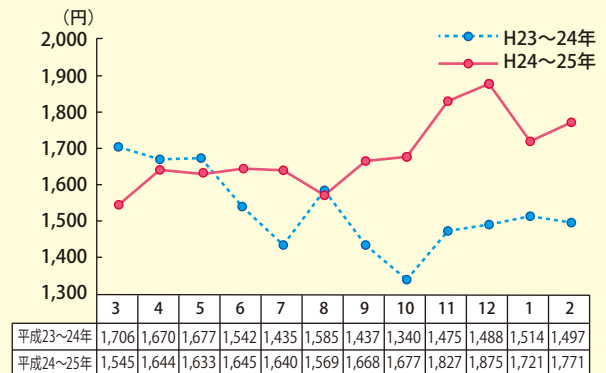
良質な牛乳とは健康な乳牛から生産されるものであるという考えから、適切な飼養管理や快適な環境（カウコンフォート）を牛に提供することを心掛けながら仕事に取り組んでいます。

変化する環境の中で、牛の恒常性を維持することが、酪農家の行くべき最大の仕事だという考えのもと、日々の作業を怠ることなく柔軟に対応していく姿勢を持ち続け、今後も更なる牧場の発展に邁進していきます。

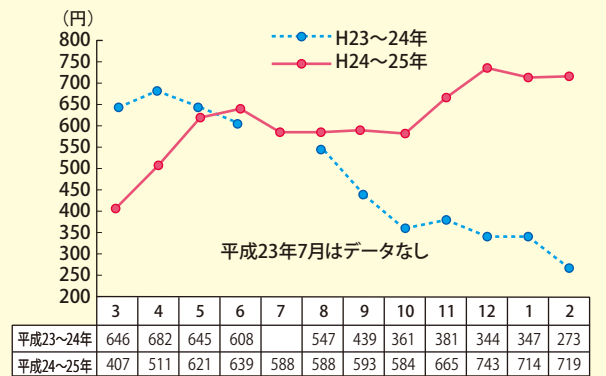


畜産物市況

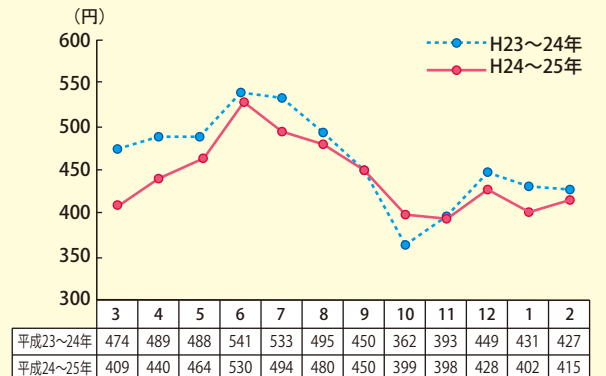
牛枝肉相場・和牛去勢A-4(東京市場)



牛枝肉相場・乳用種去勢B-2(東京市場)



豚枝肉相場・上(東京市場)



編集後記

新政権が打ち出した経済政策により、円安が進んでいます。円安は、経済再生の特効薬のひとつだと考えられています。畜産経営に特効薬はあるのでしょうか？それがあれば、私どもの仕事はほとんど無くなるのかもしれませんが、近年の畜産を取り巻く厳しい情勢に対応して、農林水産省及び（独）農畜産業振興機構は様々な補助事業を実施に移しています。当協会は、臨時総会で決定した平成25年度事業計画及び収支予算に基づき、これら補助事業の実施主体として積極的に参加する等により、県段階の実施団体としての機能を果たしてまいります。

生産者の皆様も、経営上の課題をしっかりと把握して、本誌で紹介した事例を参考に生産性向上対策等に取り組んでいただきたいと思います。相談窓口はいつでも開いています。

(鍋谷 記)